校長室だより～燦燦～ №８０３

アクティブ

2023.7.27

この前、研修会で高校の校長先生と同じ班になった。４人グループで、小学校が２人、中学校が１人、高校が１人だった。意図的に、小・中・高の校種が混ざるようにしてある班編成だった。協議の視点が示されてあった。「画一的な一方通行の授業等から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びに向かうためにどのように取り組んでいくか」である。

中学校では、画一的な一方通行の授業は、まだまだ多い。だからこそ、協議題になる。高校では、さらに多いのではないかと思われる。小学校になると、画一的な授業は少なくなるだろう。だが、個別最適化された学びや協働的な学びに向かっているかというとどうだろう。

画一的な一方通行の授業は、表現を変えれば、解説・説明型の授業である。中学校にも高校にも多い。授業者のペースで進めることができ、時間配分もしやすい。それでも、予定通りに終わらない授業が多い。しゃべりすぎなのである。

私は、自分の学校での取組について説明した。それは、画一的な一方通行の授業にはならない取組ではある。だからといって、個別最適化された学びに向かうかというと、かなりハードルが高い。簡単ではない。

休憩時間に高校の先生と話した。実は、解説・説明型でもいいと思っているんです。それがわかりやすく、すばらしければ。トークがすばらしければ。その高校の先生も同じ考えだった。その先生の学校に、解説や説明がすばらしい先生がいた。その先生が、校長先生に「グループ活動とか入れないといけないのでしょうか」と聞いたそうである。校長先生は、「先生の場合は、必要ありません」と答えたそうである。私は、中学校だが、トークが見事な先生がいれば、同じように答えるだろう。だが、現実には、そういった先生はなかなかいない。

高校には、確かに、うなるような「なるほど」と思わせる講義をする先生がいる。聞いている生徒の頭は、脳は、アクティブに働いているはずである。生徒は、「そうか、そうか」とうれしそうにノートをとりながら聞いているはずである。

授業の内容を詳細に覚えているわけではないが、私が中学３年生のときの社会と英語の先生は、同じようなタイプの先生だった。聞いているだけで、わかるのである。理解できる。今でいうワークシートはあったが、先生の説明がわかりやすかった。何かが違った。きっとポイントがわかっていたのである。専門性の問題である。

画一的だろうが、一歩通行だろうが、わかりやすければ話は違ってくる。だからといって、トークの達人を目指す必要はないが、中学校と高校の先生は、もう少し解説や説明、すなわちトークを磨くべきである。生徒の脳がアクティブに働くようなトークである。